

「G-ワークス 5月号」2014年3月20日発売(毎月21日発売) 第6巻 第5号

21世紀究極のクルマ改造本!

G-works

HKS

RB
26

チューン

G-ワークス

太血
32 R改ケンメリ登場!

2014

5

定価:本体 552円



ポルシェ
ラウ ヴェルト



旧車ホイールマッチング
鎌ヶ谷ワイドホイール
キャブレター



スバルR180デフ

流用法



強化プラグ

旧車ブレーキ

JZZ30ソアラ

筑波トヨタ車“最速”



パーツを解剖する



トヨタ車がおもしろい!



◆外装をじっくり見てみよう



R32改ケンメリ

KGC110改ケンメリ

銀色の車体の方は正真正銘のケンメリ。スペックは後ほどページで紹介していくけど、とてもキレイなケンメリでそのケンメリとこのように並べて比較しても全く分からぬというか、言われても意味が分からぬと思う。見いくと良い意味でその違いが分かる。次ページから紹介していく。



KGC110改ケンメリ

R32改ケンメリ

まずは外装をじっくり見てみるとこりよ。こちら白い車体はR32ベースのケンメリ。リヤバンパー・ウインドウ・ガーネットなどを本物バーツを使う事により、本物にしか見えない。それでも、周りなどを見ても区別が付きません。

ロッキーオートが放つ 前代未聞のキットカー!? R32ベースのケンメリ!!



KGC110改ケンメリ

R32改ケンメリ

2台のケンメリ?



R32改ケンメリ



KGC110改ケンメリ

ベースはなんとR32系
シャーシ!!



2014年東京オートサロンで発表された、ロッキーオートのケンメリ。ロッキーオートと言えば現代でも乗れる旧車、旧車に現行車系のエンジンやパワステやオートエアコンなどの装備を満載した「普段でもストレス無く乗れる旧車」を製作していることで有名。今回もカッコいいケンメリ改を作ってきた!!と思った人、今回の記事をじっくり見て、読んでびっくりして下さい♪

公認車両なので
公道走行可能!!

初公開!R32改ケンメリ走行!!

また、意味が分からぬよね?まあ焦らずじっくり見て、読んで下さい。今回紹介する2台、1台はR32改ケンメリ、そして比較用として本物のケンメリ(銀色の方)を用意してもらった。先に言っておくけどケンメリ改はもちろんのこと、R32改ケンメリも公認を取ってナンバーも取り付け可能、ただの張りぼてじゃなく堂々と公道を走れるというのもポイントです!!

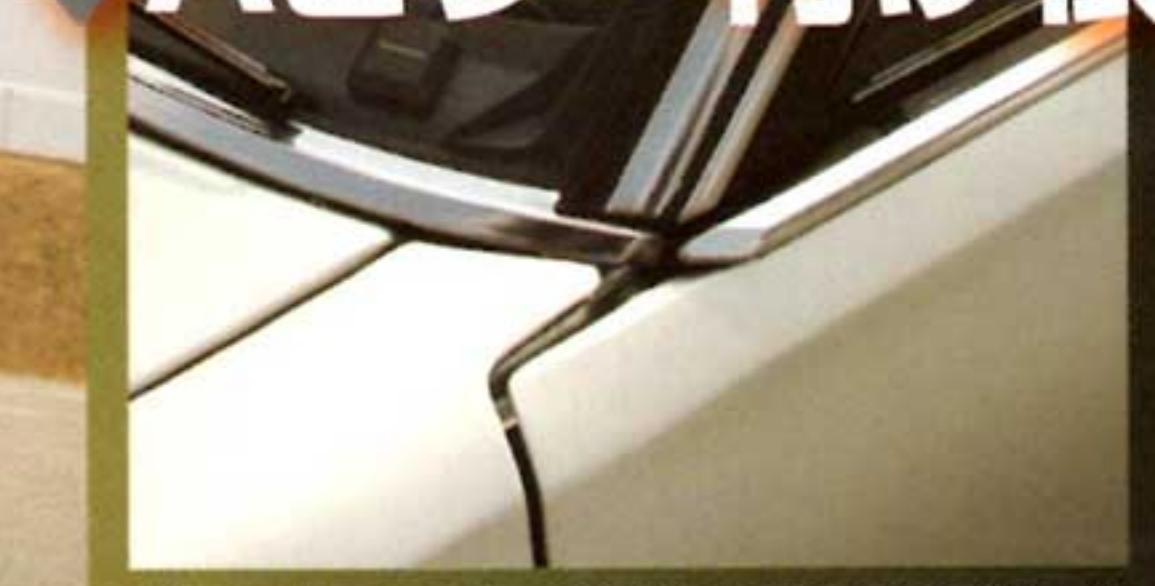
R32ボディにケンメリ
を載せました♪

KGC110改ケンメリ

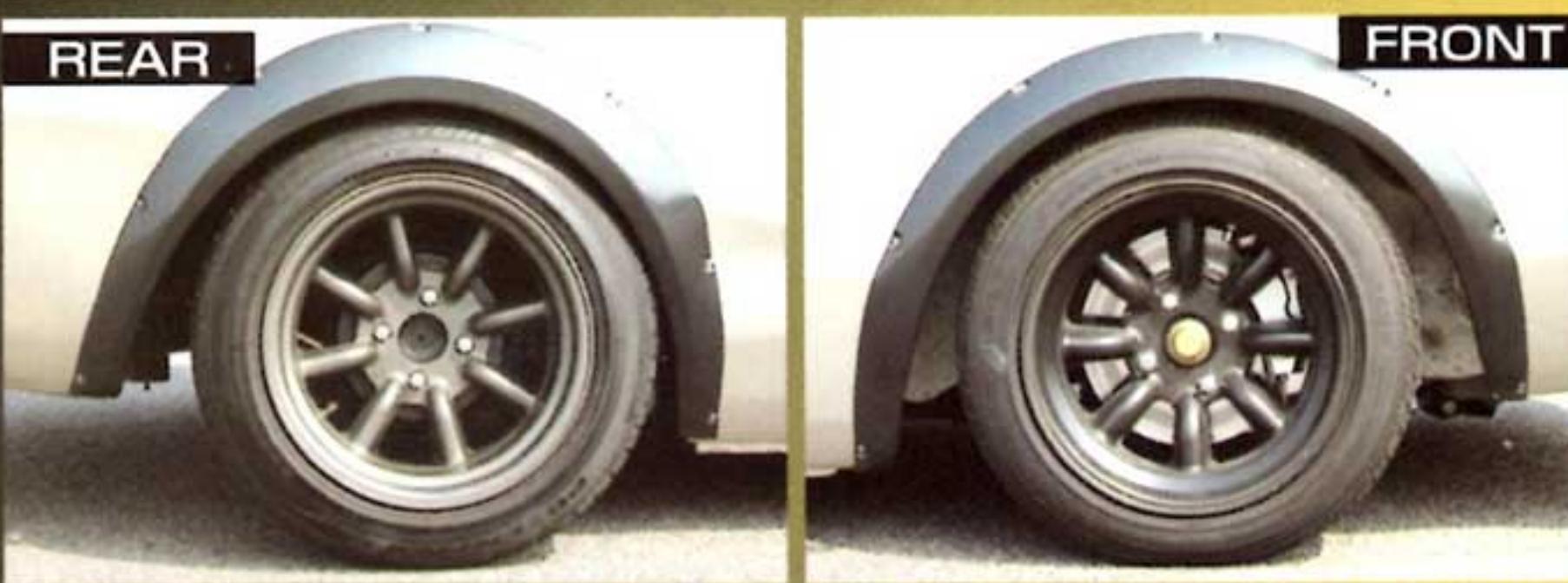
R32改ケンメリ

KGC110改

◆Aピラー付け根



KGC110改ケンメリ



◆足回り



◆マフラー&燃料タンク

デュアルマフラーはケンメリのアイデンティティでもある。スペースに余裕があるのもこの時代のクルマの特徴だ。燃料タンクはトランク前にあり(仕切り板の前)、右の給油口からガソリンを入れていく



KGC110改ケンメリ

◆ウインドウ回り



オリジナルのケンメリはこのようなAピラーが細い。これは並言としては当たり前だけれど現代のクルマは安全面等の問題でAピラーを非常に太いものになってしまっているのでその処理の仕方も重要な部分である。

◆燃料給油口



箱入り同様、トランク無しに燃料タンクを位置するケンメリ。ガソリン給油口は左側ドラフターの位置にあり、キーを使って開閉する。このような凝った作りもこの時代の特徴である

◆エンジン&エンジンルーム



今回の比較車両はオリジナルに搭載されているL型ではなく、エンジンスワップを行いRB25ターボを搭載。なのでこちらのケンメリもパワステやエアコンなどをそのまま使える仕様。ケンメリボディに拘り、普段使いも優先させたいのならこちらの選択もあり

R32改

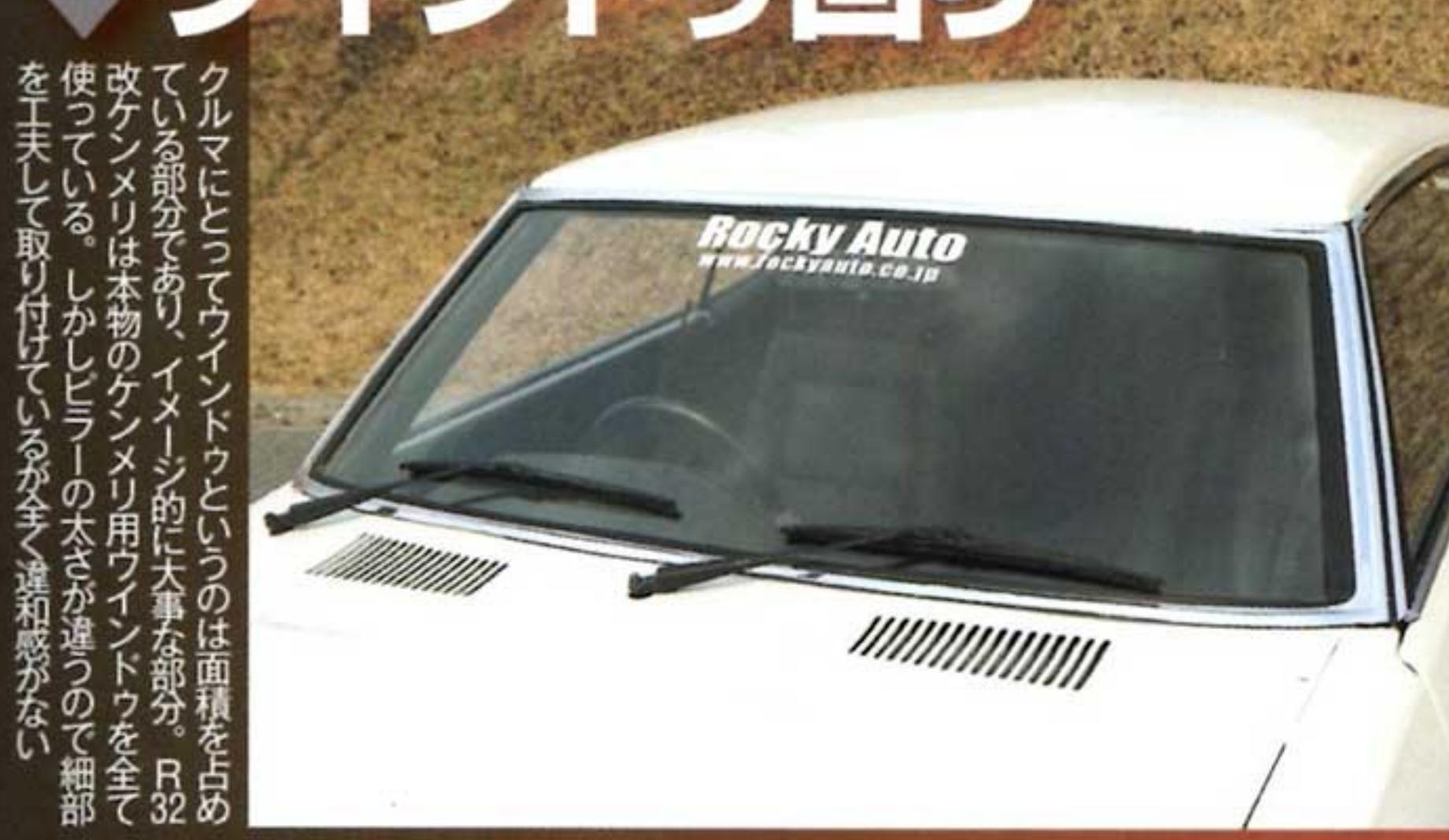
◆Aピラー付け根



R32改ケンメリ

このような車両でのAピラーの処理は特に重要。R32改ケンメリは右のケンメリと比べても遜色ない仕上がり。今後はさらにウインドウ回りのピラーを専用型で作り、本物に近づけるという

◆ウインドウ回り



クルマにどうぞウインドウというのは面積を占めている部分であり、イメージ的には大事な部分。R32改ケンメリは本物のケンメリ用ウインドウを全部で32個を使っている。しかしピラーの太さが違うので細かい違いがある

◆燃料給油口

給油口は現在ではトランク内にあり、オリジナルのケンメリが左側のドラフター位置(室内空気抜き)に給油口があるのにに対し、R32改ケンメリでは右側のドラフターを左側に取り付けているので、それこそ違和感がない



◆マフラー&燃料タンク

マフラーはR32系のモノが使えるが、好みによって色々作りわけられるのも特徴。エンジン仕様もR32系のエンジンがそのまま使えるわけだから、ターボとかNA等の選択も可能。R32ボディなのでトランク下部に樹脂製の燃料タンクがあるのが分かる



ホイールこそ違うが足回りがまんまR32のマルチリンクを使えるのも特徴。乗り心地も操縦性も、グリップもケンメリとは異次元。市販パーツも豊富にしかも安くるので、LSD1つとっても色々な選択肢がある。しかも駆動系の強度も格段に高い

◆足回り



ボンネットはFRP製、ケンメリ用ヒンジ等を加工して取り付けている。トランクルームを見ると骨格がR32だと言うのが分かる

◆エンジン&エンジンルーム



エンジンは車体に搭載されていたRB26のFCR仕様だけだ。もちろんR32のノーマルRB20、RB25等が標準となる。これによりエンジンフィーリングはまるでR32で、エアコンやパワステなどの補機類ももちろんそのまま使える。エンジンルームを見るとR32だと気付く人もいるだろう

KGC110改

こちらがオリジナルのケンメリ。ステアリングが変更されたりミッションが71Cになっていたりするけどこの雰囲気はやはり独特のもの

◆メーター



ケンメリ特有の7連メーターにGT-R仕様のアルミパネルを備えるメーター回り。RB25エンジン搭載なのでオートエアコン（助手席下にユニットを隠している）、油圧パワステを装着し、スイッチ類も床下に見える



◆フロントドア回り

こちらはオリジナルのドア。R32改と比べるとゴムなどの位置や厚さ自体が違う事が分かるだろう。これだけ違うものを使うというのはかなり大変な作業



まさに
「誰でも乗れる」。
精巧なケンメリレプリカ



KGC110改ケンメリ

◆ダッシュボード回り

◆リヤシート



オリジナルの雰囲気を残す室内に合わせたシート類。使い勝手は良く、リヤシートの居住性は悪くないがケンメリHT特有のリヤシートの専用部がある

◆フロントシート



◆ペダル回り

足元のスペースは旧車特有の余裕のあるもの。R32改ケンメリと比べると良く分かる。この車両はRB25スワップで配線等も作り替えてるのでリレーBOX等が見えるがオリジナルにはこれはない



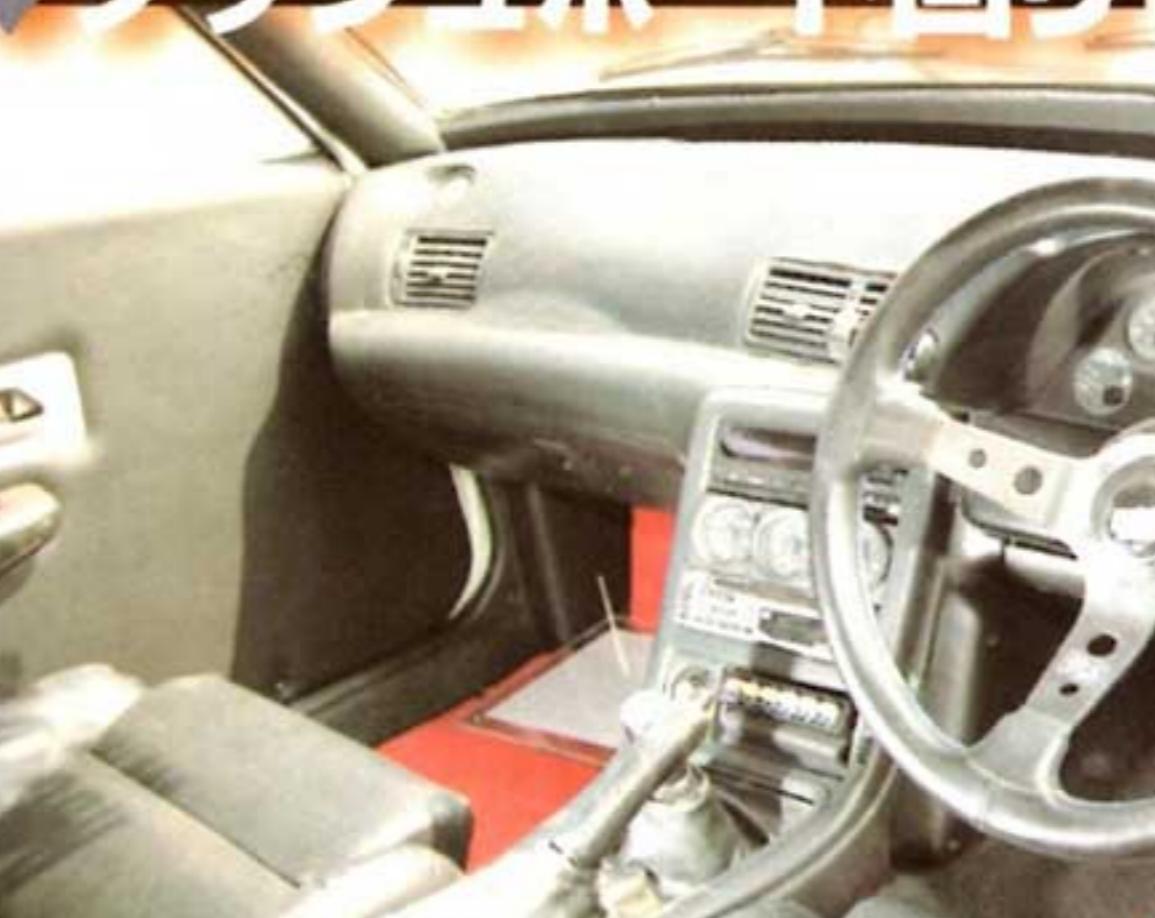
取材協力 ロッキーオート
愛知県岡崎市明大寺町字大塙 55-31
Tel:0564-58-7080

どうしても数に限りがあるし、コストもそれなりに上がる。そこで渡辺社長は考えたわけだが、誰にでも扱えて比較的貢いやすいクルマをと・R32ボディなので殆どのメンテナンスは購入した地元の整備工場でも可能というのもポイント。オートサロンが終わってから気にはさらに増したが、前のページでも言つたけど細かい部分の仕上げにも余念がない。免許取り立ての女性だつて簡単に扱えるR32改ケンメリ、新しい時代がやってきた感じだ。

R32改

◆ダッシュボード回り

ここから内装を重点的に見ていくことにしよう。敢えてR32を残したダッシュボード、ケンメリにそっくりな室内とはせず独自の雰囲気を残した室内は、特別感がさらに増す作りとなっていた



スピードメーター回りやダッシュ回りはR32スカイラインのそれを使う。なので機能はまんまR32。使い勝手は全く問題なし。エアコンや油圧パワステは当たり前、AT仕様たって出来る!!

◆フロントシート

◆リヤシート

◆フロントドア回り



◆ペダル回り



ベースボディがR32だからR32に準じたペダル回り。基本的にそのまま使用しており、使い勝手もR32のそれだ。クラッチ等もアシストされているので強化クラッチを入れたとしても非常に軽いし、ブレーキもR32なのでタッチも非常に良く効きも満足のいくもの

◆後ろの視界はまんまケンメリ

運転席に座ってバックミラーを見るとこの景色が見えてくる。ね、まんまケンメリでしょ。外板同様室内の作り込みもかなりのものだということが分かるだろう



コンセプトを膨らませそのアイデアを現実にさせたロッキーオート社長・渡辺さん（左）と一緒に試乗した小林編集長・石川。このバイタリティにはホント、頭が下がります

初公開、R32改ケンメリの走行シーンと室内からのカット。走りはまんまR32系で全く違和感ないがサインドア、リアウインドウなど運転して視界に入ってくるものがケンメリ部分だったりするので不思議な気持ちになるけど、それはR32改ケンメリ特有のスタイルと思つていい

◆メーター



このような車両で苦労するのが開閉部、特にドア。かなりの苦労が伺えるが違和感なく作られているのも見事。外側の見える部分はケンメリ、内部はR32ドアをベースに製作されている

「面白い車両を作ろうと思っていましたよ」と、聞いたのが昨年の早い時期。合う都度、その進行具合を聞きつつ実際に出来上がったのを楽しみにしていました。それを実際に目にしたのは2014オータロン会場だ。まあつくりました!!

コンセプトは今までには旧車に新しいエンジンや快適装備だったけど、逆とも言える新型車に旧車の外観。といっても中途半端じゃないのが見てもらつて分かるようになります1/1ケンメリ。外板はケンメリだけどベースのR32に合わせないと行けないから、全て新たに製作。ケンメリの細部を拘り再現しつつ、R32ボディに合わせてしているのだ。

基本的にFRPパーツだけど型を作らないといけないからそれだけでもたぶん数千万は掛かっているのではないか?と思うほど初期投資がハンパではない!!しかし今までの旧車に新型をスワップなど

現実になつたのだ!!